

ヒトの腸炎患者から分離された *Salmonella typhimurium* の プラスミドプロフィールについて

富田正章・松崎静枝・片山 淳
遠藤隆二・宮村恵宣

山口獣医学雑誌, 19, 25-30, 1992

1977年から1990年の間にヒトの腸炎患者から分離された *S. typhimurium* のプラスミド保有状況について調査を実施した。被検菌株107株のうち、76株は種々の大きさのプラスミドを保有していた。これらのプラスミド保有

株のプラスミドプロフィールは38種類に分類できた。特に、薬剤感受性株や薬剤耐性が共通の菌株においては、プラスミドプロフィールによる分類は有効であることが確認された。

The Salting-out Test to Identify Virulent *Yersinia pseudotuberculosis*

Masaaki TOMITA, Shizue MATSUSAKI, Atsushi KATAYAMA
Ryuji ENDO, Shigenori MIYAMURA

Zbl. Bakt., 279, 231-238, 1993

Salting-out法が、*Y. pseudotuberculosis* の病原性プラスミド保有株と非保有株の鑑別に応用が可能か否かについて検討した。被検菌株54株のうち、病原性株の指標であるカルシウム依存性増殖と自発凝集性を示す菌株はい

ずれも0.9%食塩水に凝集したが、非病原性株の性状を示す菌株は凝集しなかった。このことから、0.9%食塩水による疎水性試験は、病原性プラスミド保有株のスクリーニングに応用できると考えられた。